

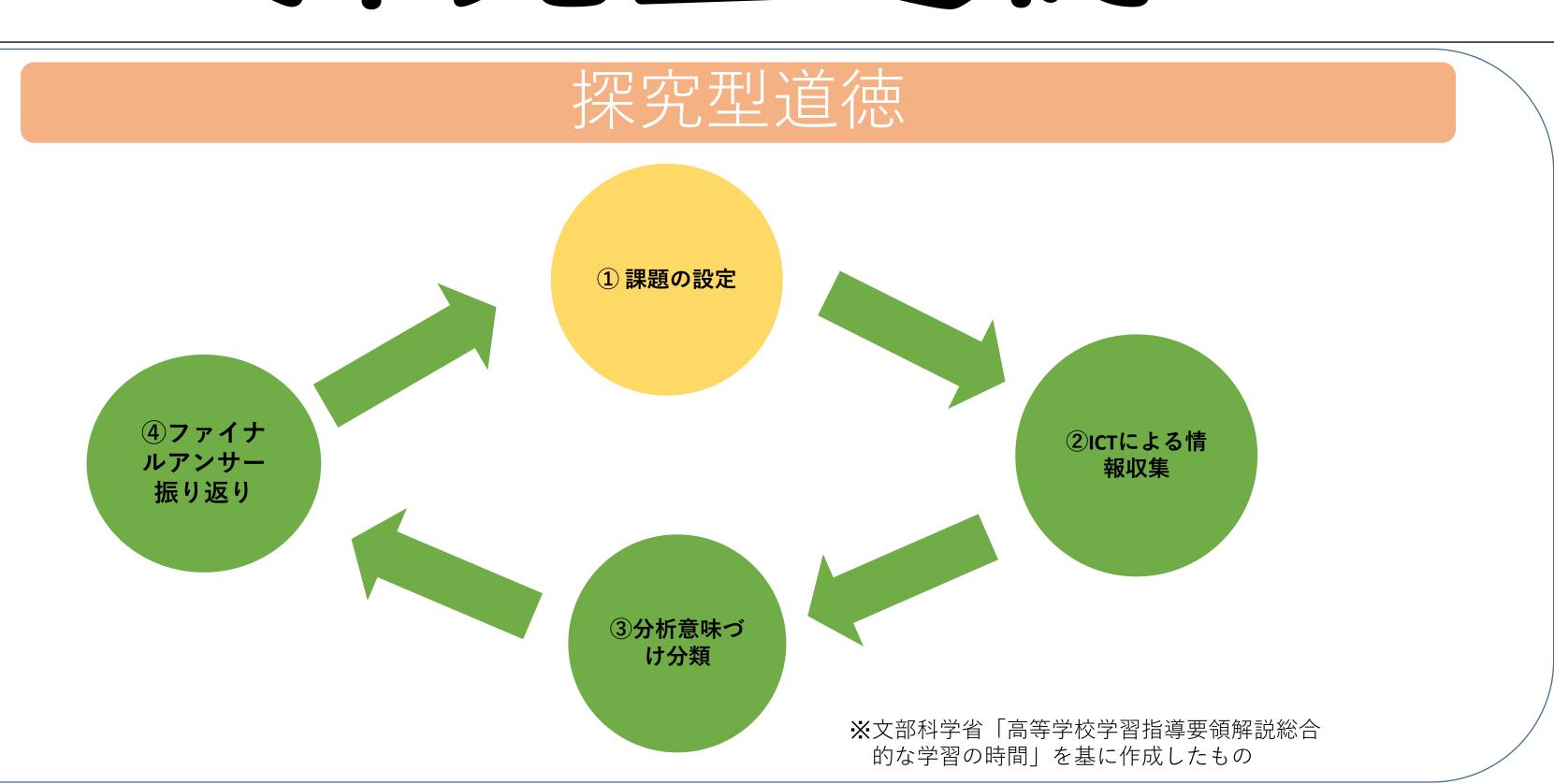
子どもと創る問いから、主体的な学びに繋げる探究型道徳

背景と目的

道徳の授業の課題として、主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話し合い活動や読みものの登場人物の心情の読みとりのみに偏った形式的な指導が行われる例がある。教師が児童に決まりきったことを言わせたり書かせたりするのではなく、主体的に児童が道徳の授業を教師と共に創っていけるような質の高い道徳授業を行っていく必要があると考え

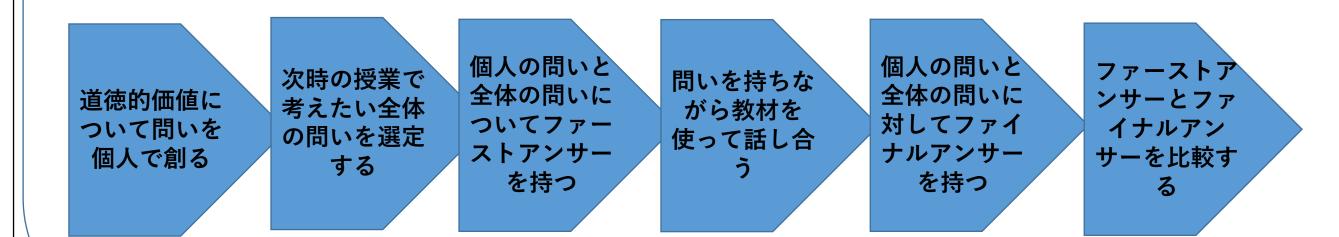
質の高い道徳授業の指導方法の工夫として、指導要領では、問題解決 的な学習が挙げられている。

昨年度は、「探究型サイクルを運用した探究型道徳授業の開発とICTを活用することにより多面的・多角的なものの見方への発展すること」について検証したが、今回は課題の設定の過程である①課題設定の「問いづくりにおいて児童が主体的となり、結果として児童の道徳性が養われる」という仮説について検証していくことが目的である。

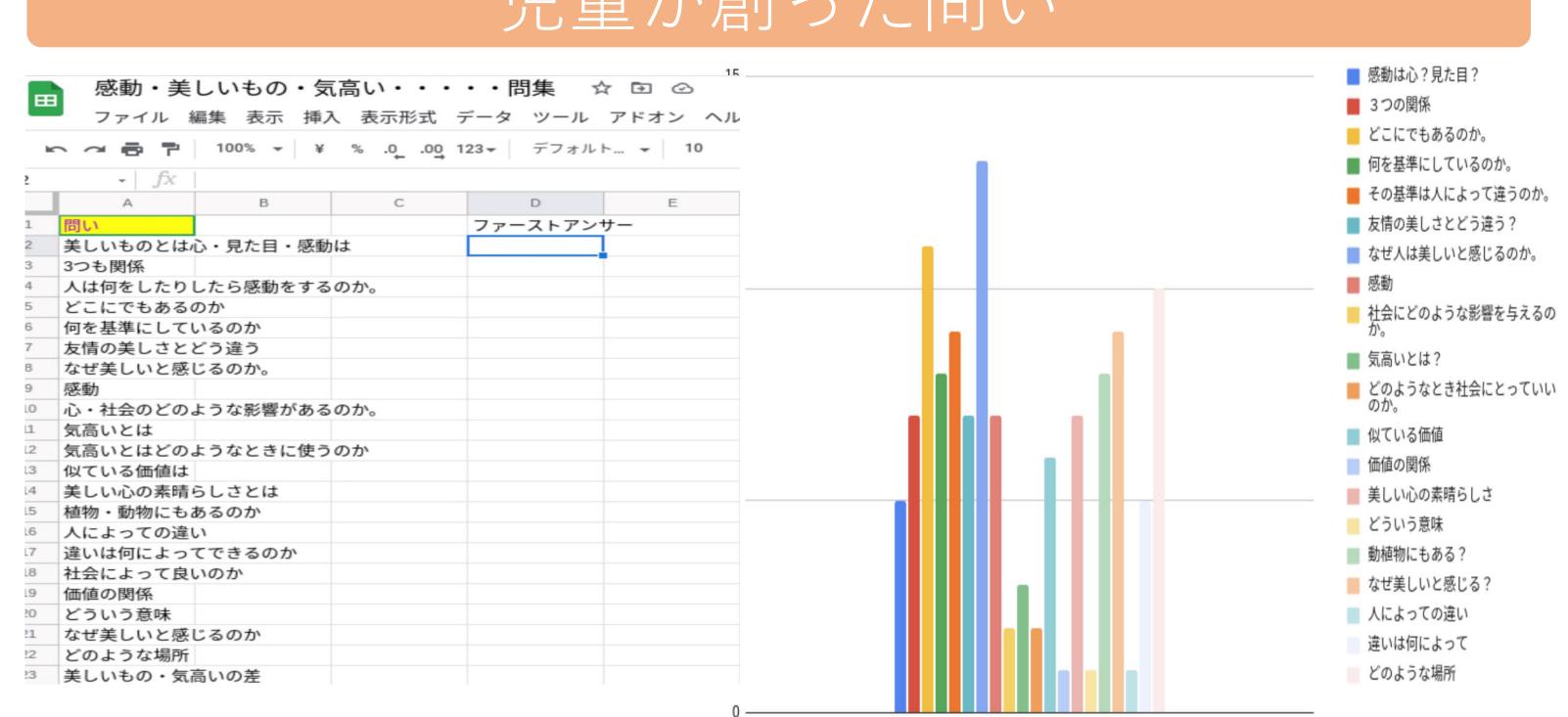


実施内容

探究型サイクルを運用した探究型道徳を行うことで、児童が主体的となり、結果として道徳性の向上に繋がると考えたため、一年を通して、 道徳的価値についての問い創りを以下の手順で行った。



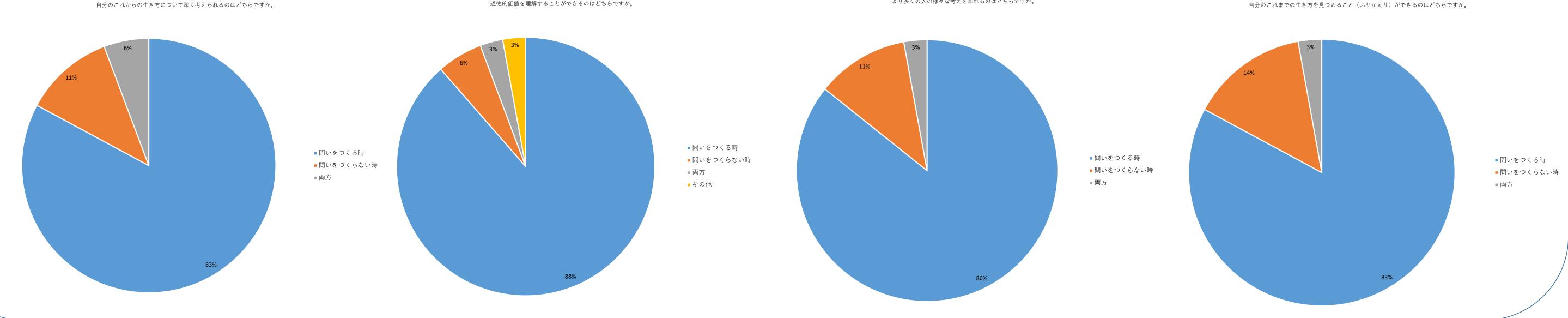
児童が創った問い



児童アンケートの結果

実践の成果

<考察>児童対象アンケートを行い、道徳科の児童の評価の四つの視点から子供の意識を見取ったところ、 8割以上の児童が、児童自身で問いをつくることによって、自身の成長や自己の 生き方についての考えの深まりを感じ、道徳的価値について自己との関わりの中で考えられたと感じていることがわかった。



今後の展望

今回の問いづくりにおける児童の意識調査は中学年のみで行ったので、今後は、低学年や高学年でも実践を行い、比較していきたい。探究型道徳のサイクルを運用することで、成果として思考ツールを用いた分析を行う児童が増えため、次回は児童が多面的に視野を広げるための分析方法についての研究を行っていきたい。またこれまで、探究のサイクルの①、②、③については考察を重ねてきたので、④のふりの追程においても考察し、検証を続けていきたい。

児童が行った問いの分析

